



No. 47
2016 Spring

山松舎
臨南寺

た。

正伝の仏法を広めたい

宝治元年（一二四七）八月、道元禪師は永平寺を発ち、鎌倉へ向かいました。道元禪師は、師の如浄禪師から「決して権力者に近づいてはいけない」と言い含められていました。道元禪師は、時頼の庇護を求めたわけではありません。

道元禪師は、この鎌倉行きをチャンストとらえ、正伝の仏法を天下に広められるかもしれないと願ったのです。しかし、時頼は道元禪師を名僧の一人としてしか見ていませんでした。正伝の仏法とは程遠い円爾和尚など同列に扱い、「そなたにも一つ寺を建てて進ぜよう」などと言いつつ始末。

失望した道元禪師はそんな申し出を断り、宝治二年（一二四八）春、鎌倉を離れ、三月十三日に永平寺に帰り着いたのです。わずか半年間の鎌倉滞在でした。

特集

道元禪師ものがたり

21



北条時頼の求めに忘れて
鎌倉で半年過ごします。

日常生活そのものが修行

永平寺は、道元禪師のもとで修行道場の性格を強めていきました。道元禪師は日常生活における、すべての行いが修行であると考えていました。悟りのための手段ではなく、食事や作務など日常生活の一つひとつが、「かけがえのないものである」と説かれました。修行僧の人数が多いことより、たった一人でも正伝の仏法を継いでくれる

僧を育てたいと願っていました。お釈迦さまの教えを正しく伝える仏弟子を養成する。そして、養成された仏弟子が、お釈迦さまの教えを正しく伝える

仏弟子を養成する。そうすれば、正伝の仏法が絶えることはありません。永平寺で修行僧は坐禅に打ち込みます。只管打坐、ひたすら坐ります。すべてを投げ打ち坐り続けます。道元禪師はそんな永平寺を夢見ていたのです。

時頼からの誘い

大仏寺建立から三年。永平寺でひたすら修行に打ち込む道元禪師のもとへ思わぬ報せが届きました。道元禪師を越前に呼び寄せ、永平寺建立に援助を惜しまなかった波多野義重から「鎌倉へおいでいただけないか」という要請です。

関白家の出身で、中国から新しい仏法をもたらした道元禪師の評判は鎌倉の北条時頼の耳にも届いていました。義重は北条時頼の御家人です。時頼は御家人の義重を介して道元禪師を鎌倉へ呼び寄せようとしたのです。大恩人の義重の願いをむげに断ることはできません。義重のために、やむを得ず鎌倉に向かうことを決心しまし

ほろほろと 椿こぼるる 彼岸かな

三月二十三日

春の彼岸会を修します

子規



今年の春分の日は三月二十日です。この日が「彼岸の中日」です。

中日を中心に前後三日ずつを合わせた一週間が「お彼岸」です。今年には十七日が彼岸の入りで二十三日が彼岸結願になります。

お彼岸は、平安時代の初め朝廷で始まったと言われます。鎌倉時代には武士にも広がり、江戸時代から庶民に普及しました。昼と夜の長さが同じになる春分の日には、太陽が真西に沈みます。西方浄土を礼拝するのに最適の時期として定着したようです。

迷いと煩惱にあふれたこの世「此岸」に対して、「彼岸」は一切の執着から離れた安らかなあの世のことです。お彼岸の一週間は彼岸に渡るために生活を見直す修行の時であると同時に、ご先祖様のご冥福を祈る追善供養の時でもあります。

臨南寺では、彼岸の中日の二十

日にお彼岸写経会を開催し、彼岸結願の二十三日には午後一時から彼岸会施食会を修行いたします。

彼岸会施食会では、亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、先祖供養の法要を行います。家族そろって彼岸会施食会にご参加いただき、お墓に参ってお墓を清めお供えをいたしましょう。当日ご都合の悪い方は、不参にてのご回向をお受けいたしますのでお問い合わせください。



彼岸会にお参りして先祖供養いたしましょう

寺景 臨南 百景



山門が落成しました

この山門は、「薬医門」と呼ばれる伝統的な建て方の門です。長居郷土誌寺岡村小史によれば、かつて「本堂、庫裏、玄関、土蔵、薬医門を存す」とあり、この度再建に至りました。武家屋敷や寺院の門としてよく目にします。なぜ薬医門と呼ぶのか、いろんな説がありますが、医家の門として多く使われ、扉を閉めても脇の木戸から四六時中患者が出入りできたと言います。

高さ約七m、幅約十三mの堂々とした姿。中央には「含松山」という当山の山号の扁額が掲げられております。大本山總持寺の元貫首、板橋興宗禅師の揮毫によるものです。

なお、山門をお通りになる際は歩いてお通りください。



「含松山」の扁額がまぶしい山門

平寺の両本山から贈られた、東日本大震災復興祈願の桜が植えられています。東日本大震災の復興を切に祈るとともに、大樹に成長して美しい花を咲かせてくれることを願っております。



山門の脇に植えられた東日本大震災復興祈願の桜

山門に続いて客殿が

まもなく完成いたします

待望の山門が新年早々に完成し、落慶法要を営みました。お願いいたします。

四月末には客殿が完成予定です。これも皆様方の一方ならぬお力添えの賜物と深く感謝申し上げます。

四月末には客殿が完成予定です。四日間、「報恩大授戒会」を行いたします。期間中には、客殿の落慶法要、先代住職十三回忌法要を併せてお勤めいたします。

近年、本堂での年忌法要ご葬儀が増えておりますが、今までは控室がないためご不便をお掛けしておりました。しかし、客殿の落慶法要後は、お檀家様には控室等さまざまな用途でお使いいただきたくと思っております。

授戒とは、戒を授かり、お積迦様の仏弟子となる儀式です。その戒をお授けくださいます戒師は、前曹洞宗管長・大本山總持寺貫首江川辰三 猥下がお勤めくださいます。

このような機会は滅多にあるものではないと思っております。できるだけと思っております。

五月中には、寺務所機能を客殿に移す予定でございます。ご不便をお掛けいたしますが、何卒ご理解くださいますようお願いいたします。

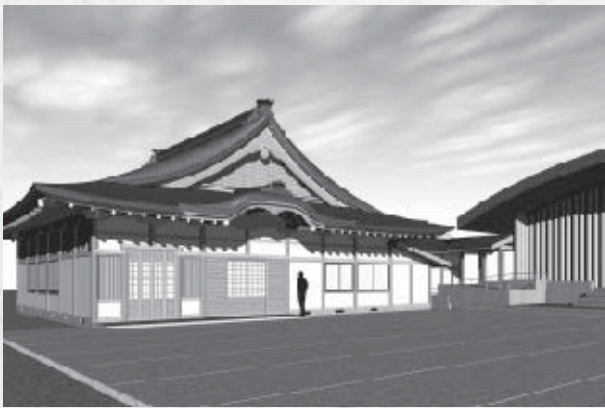
今回の「大授戒会」にご参加いただき、尊い仏縁を結んでいた



臨南寺 住職

大澤正道

合掌



四月完成に向けて急ピッチ

臨南寺行事予定 (三〜五月)

○ お彼岸写経会

*三月二十日

午前十時〜午後三時(受付は随時)

亡くなられた方やご先祖を偲びながら、一文字二文字心を込めて、お写経なさいませんか? 大本山總持寺に納経させていただきます。(納経料千円)

○ 彼岸会お墓経

*三月十九日・二十日

午前十時〜午後三時(受付は随時)

どちらかご都合の良い日にお越しください。臨南寺に墓地をお持ちの方に限ります。(回向料二万円)

○ 春季彼岸会施食会

*三月二十三日 本堂にて

午後一時〜午後三時(受付は一時三十分まで)

お彼岸供養の法要を行います。お彼岸はご先祖様に感謝する大事な期間。ご先祖様を偲び今あることを感謝いたします。ご家族そろってお越しください。(回向料二万円)

○ 釈尊降誕会(花祭り)

*四月八日 午前九時〜 本堂にて

お釈迦様のご誕生を祝う法会です。本堂前に安置した誕生仏様に甘茶を注いでお祝いします。ご参拝の皆様にも甘茶が振る舞われます。

○ マトリ合同法要

*五月八日 午後一時〜

マトリにご納骨された方々の慰霊の法要を行います。本堂で法話を聞いた後、マトリで亡くなられた方のご冥福を祈ります。

*客殿工事のため、本堂周辺ではご迷惑をおかけしますが、ご注意ください。お気軽に申し上げます。

昨年十二月より

お勤めさせていただいています

山形県新庄市に生まれ、学生時代は仙台市で過ごし、平成二十五年二月から二十七年十一月まで横浜市の大本山總持寺で修行させていただきました。この二年九カ月は、人生でもっとも早く過ぎ去った時間でした。右も左もわからぬまま、總持寺の門をたたき草鞋を脱いで足を拭き入門、沢山の仲間とともに修行に入りました。毎日の作務(掃除)や公務(僧侶の仕事)のしきたりが細かく、肉体的にも精神的にも辛いものでした。



長峰有士

禅僧にとっては日々の生活が修行です。起きてから寝るまで気の休まる時がありません。ご飯を食べる時でさえ沢山の作法があります。間違えれば先輩修行僧に酷く怒られます。最初は腹が立つこともありましたが、生活の細かい行いが全て修行なんだと少しずつ体で覚えていきました。修行生活も慣れてくると精神にも余裕が生まれます。作務をすれば清々しい気持ちになりますし、ご飯をいただければ満足感と有り難い気持ちにもなりました。

修行を通して痛感したのは仲間の大切さです。縁あって日本各地から集まった仏道修行の仲間たちが寝食をともしにして、時にはぶつかり、時には一緒に涙しました。修行は到底一人ではなしえないと思います。修行道場には「大衆一如」の言葉が掲げられています。「目的を同じくする者は、行ずること全てにおいて、ひとつになるよう心掛けなさい」というお示しです。その意味を身を以て味わうことができました。

總持寺での修行を終え、ご縁あって臨南寺にやってきました。臨南寺においても日々精進し修行を続けたいと思います。お檀家様はじめ臨南寺に関わるすべての方々とのご縁を頂戴し、心より感謝申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

厄を払い福を授かる

弁財天祈禱会

新しい年を迎えて、二月十五日、弁財天祈禱会が修行されました。この二年もよい年になりますよう、無病息災・

家内安全を願って、多くの方がお参りになりました。

法要の後、お一人おひとりの厄払いが行われ、破魔矢が授けられ、甘酒が振る舞われました。



厄を払い、福が授けられました



墓苑をご利用の皆様へ

- 手桶を花立て代わりに使わないでください。ご使用後は必ず元の場所へお戻しください。
- ペットを墓苑内に連れて行かないでください。
- お供物は、カラスなどに荒らされる原因となりますので、各自お持ち帰りください。



お車でお越しの方へ



境内地内は **最徐行** してください。
大変危険 です。

編集後記

東日本大震災から五年。福島原子力発電所はいまだに汚染水を溜め続け、除染物は最終処分場どころか中間貯蔵場所も決まらないまま放置されています。にもかかわらず原発は再稼動を始めています。私たちはこのまま地球からの警告を無視し続けるのでしょうか?(M)

お気軽にご参加ください

早朝坐禅会

毎月第一土曜日
午前六時半〜 本堂にて

*今年六月と八月をお休みさせていただきます。

写経会

毎月二十日
午前十時〜午後三時
写経料・千円

*いずれも事前のお申し込みが必要です。

「ほ〜っと」47号

平成28年3月

編集・発行：稜伽林「ほ〜っと」

編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-667-638

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com